



第24号 (平成28年3月)

滝川市ボランティア連絡協議会



## 1年を振り返って

滝川市ボランティア連絡協議会

会長 岸部 三和子

27年度の行事も、残すところあと少しとなっております。ボランティア連絡協議会の皆様方には何かとお忙しい中、ご支援ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

年3回のボランティアスクールですが、7月には、「健康生活支援講習」を開催し、心や体の影響、気を付けたい病気、起き上がりなどの介助を実践形式で学びました。

11月には「笑いヨガ」を行いました。人は笑うことで、免疫力の増加、脳の活性化、血行促進、自律神経のバランスなどに良いとのこと。3回目のスクールは、3月に開催された市民ボランティアの集いの中で、もう一度「笑いヨガ」を取り入れてみました。

11月の視察研修では、新十津川町の「かある園」と「ハーブガーデン」を訪問してきました。ハーブガーデンでは専用のトレーニングマシンを導入し、眠っている筋肉を呼び起こすパワーリハビリを行っており、リフレクゼーションでは、ウォーターベッド・メドマーを配備してあります。

今後ともご健康に気を付けて、ボランティア活動をよろしくお願ひ致します。

## 「全ての市民が参加するボランティア活動を！」

社会福祉法人滝川市社会福祉協議会

会長 椿坂 幸夫

滝川市ボランティア連絡協議会が「地域住民の福祉の充実と向上」を旗印に活動される皆様に、深甚なる敬意と感謝を表すると共に、滝川市社会福祉協議会の活動にもご理解とご協力を賜り、心よりお礼を申し上げます。

福祉を取り巻く背景には、少子高齢化・核家族化・孤立死・育児不安・虐待・経済格差・自然災害等々。更に在宅療養・在宅介護・介護予防が求められ、市民を取り巻く地域福祉の今日的課題は、山積みの一途にあるといえます。

しかし、幸いにもボランティア団体の皆様の温かいご支援の手により、市民に安全安心感を導き、困窮を救い、事件事故を未然に防ぐ等々、安定した市民生活が成り立っているといっても過言ではありません。「住みよいまちづくり」には、ボランティア活動は必須条件であり、全市民が日常生活の一部として、ボランティア活動に関わることを大いに期待したいのです。



滝川市ボランティア連絡協議会広報誌「こすもす」は共同募金の助成を受けて発行しています

